

「あゝ幸せ！」

飯がうまい。空気がうまい。水がきれい。景色が美しい。生きものに囲まれてにぎやか。そしてムラには人間味があふれています。

おじの経営する農家を手伝い始めて二年目。南阿蘇・白水村で心から幸せと思える日々を送っています。

「ドイツの大学院まで出てなんで？」周囲からは不安がられ、反対もされました。地元の人たちは若者が増えたことを喜ぶ半面、本当に農業で食べていくつもりなのか不思議そうに見て

きょうの 発言

います。

そんな周囲の目をよそに、私と妻は今の暮らしに大満足。収入は、都会で暮らす同級生に比べて少ないかもしれない。その代わりに支出もストレスも極端に少ない。田舎には時間や環境など、お金では買えない貴重なものがあるからです。南阿蘇の雄大な景色の

「半農半デジ」生活

大津 耕太（農業）

中、日が昇れば仕事をし、沈めば終了。無農粟米を生産販売しているの、ご飯は食べ放題。野菜は畑とぼあちゃんの菜園から。薪やタケノコはじいちゃんの家から。あか牛の繁殖もしているの、子牛を売ったお金で肉を賣う。

日本の食料自給率は40%と世界最低水準で、熊本県の農地は二十三年連続で減少中。食料を輸入に頼って本心に安心で豊かな暮らしができるのだろうか？ そう考えたら、どうしても農

業をしたくなりました。

今や田舎でもインターネットを通して東京や世界とやりとりができます。農業を基盤に、大学で学んだ環境や語学を生かした仕事もする今の生活を、妻は「半農半デジ」と言います。南阿蘇で自分たちらしい農業をしながら、すてきな暮らしをつくっていきたい。農村が育んでいる大切なものを伝えたい。そして地域にも貢献していきたい。そんな夢や暮らしをお届けしたいと思えます。